

放課後子ども教室

令和2年3月
滋賀県教育委員会

国 1/3

都道府県 1/3

市町 1/3

～新・放課後子ども総合プランの推進～ 【補助率】

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域住民等の参画を得て、学習支援や体験活動を実施する。

令和2年度実施予定：6市町36教室

放課後子ども教室

『新・放課後子ども総合プラン』
として実施 (H30.9月策定)

放課後児童クラブ

【地域学校協働本部】
地域学校協働活動推進員

双方で情報共有

放課後児童支援員

連携
協働

〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

協働活動支援員
協働活動サポーター
学習支援員
特別支援・共生社会サポーター

多様な
プログラムの提供
安全管理

○学習支援や体験活動

- ・学習支援(予習・復習、補充学習、ICTを活用した学習 大学生などによる進路相談など)
- ・体験活動(理科実験、芸術教室、伝承遊び体験活動、地域の資源を活用した自然体験学習、社会体験活動など)



参画

退職教職員、大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材

小学校など

- ・余裕教室や特別教室(図書室、家庭科室)等を提供
- ・学校敷地内の専用施設を利用
- ・体育館などの一時利用の促進

県の取組

学校を核とした地域力強化プラン研修会

地域学校協働活動推進員、コーディネーター、運営委員会委員、協働活動支援員、協働活動サポーター、学習支援員、特別支援サポーター、共生社会サポーター、ボランティア、専任指導員、放課後児童支援員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組


放課後子ども総合プラン運営委員会


- ・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
- ・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室

連携

放課後児童クラブ(学童保育)

○すべての子ども(小学校に就学している児童)
○学習支援・体験活動の場
地域学校協働活動推進員等のコーディネーターが中心となって、学習やスポーツ、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。
○伝承遊び、学習(予習、復習、宿題等)、スポーツ、文化活動など
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員 学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 特別支援・共生社会サポーター 特に配慮が必要な子どもたちへの支援 
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など
○平日の放課後・週末(教室により異なる)
○無料(教室により保険、材料費などの徴収あり)
○7市38教室(平成令和元年度)

対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
内容	○遊びの場・生活の場 放課後児童支援員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
主な活動	○遊び、学習(宿題)
スタッフ	放課後児童支援員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。 
実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
開催日	○平日の放課後、土曜(クラブにより異なる)
利用者負担	○月額5,000円～10,000円程度(施設により異なる)
県内数	○19市町353クラブ18,308人(令和元年5月1日現在)